

赤旗読者ニュース

北上かわら版

釜石艦砲射撃の記憶を映画に!

都鳥兄弟の映画づくりをテレビが報道

7月28日、IBCテレビニュースエコー(夕方6時15分放送)は、北上市鬼柳町出身の都鳥兄弟(拓也・伸也)の釜石艦砲射撃をテーマとした映画づくりを報道しました。



報道は、釜石艦砲射撃の内容と、いかにそれを語り継いでいくか、特に若い人に平和の問題をどう伝えて行くかの大切さを強調していました。

都鳥兄弟はこれまで、戦争と平和の問題だけでなく、医療や福祉をテーマにした映画もつづけてきましたが、その底流には一貫してこの「伝え」の流れがあるように思います。テレビにはかつての高校生平和大使と今年の高校生平和大使の代表が登場し、語り継いで行く大切さと意義を語っていました。

釜石艦砲射撃

釜石艦砲射撃とはどういうものだったのでしょうか。



釜石は1945年7月14日と8月9日に2度の艦砲射撃を受けた

7月28日 IBCニュースエコーの画面より撮影

※上映会は2023年8月に予定

それは終戦間際の1945年7月14日と8月9日の2回、アメリカ海軍による、日本での最初の艦砲射撃と言われています。戦艦3隻、重巡洋艦2隻、駆逐艦9隻により、軍需工場・釜石製鉄所のある釜石の町は5300発の砲弾を浴び、壊滅的な打撃を受け、782名の市民が犠牲になったと報道されました。

加藤昭雄氏の著書「最北の特攻出撃基地『後藤野』」では、7月14日の約2時間余の攻撃で釜石の市街地は焦土化し、死者454人、戦災世帯数2682世帯と記され、隣の大槌町、山田町も空爆を受け、綾里、大船渡でも機銃掃射により漁民や児童が犠牲になっています。2



(壊滅状態の釜石)

回目的8月9日に

その時特攻たちは

前出の加藤氏の同書には、「釜石が艦砲射撃を受けた7月14日、黒磯の第26飛行団(特攻隊)に釜石への出撃命令が出された」とあります。2回目の攻撃を想定した命令と言われています。

命令を受けたのは次の8名です(加藤氏同書より)。
・矢田光三中尉(隊長、陸士五十七期、操縦)

・吉村公男中尉(陸士五十七期、操縦)

・住吉正佑中尉(陸士五十七期、操縦)

・加藤秀夫少尉(特操二期、操縦)

・出谷三治少尉(特操二期、操縦)

・渡邊秀男少尉(特操二期、操縦)

・佐藤仁三伍長(少飛十五期、機上無線)

・石井 博伍長(特幹、機上無線)

以上8名は8月9日まで後藤野飛行場に待機することになります。

8月9日

午後になって、後藤野に待機していた第二五五神鷲隊に出撃命令が出された。吉村公男中尉(石井博伍長が通信員として同乗)、加藤秀夫少尉、渡邊秀男少尉の三機四人に出撃が命じられ、他の四人は翌十日の出撃と決まった。



釜石市出身 中学校3年生のとき、東日本大震災で被災第15代 高校生平和大使



上がかつての高校生平和大使。下が今年の高校生平和大使。

時五十分、吉村中尉(石井博伍長が通信員として同乗)、加藤秀夫少尉、渡邊秀男少尉、加藤少尉



打ち込まれた砲弾は5300発以上

の乗る三機の九九式双発軽爆撃機は後藤野飛行場を離陸した。防衛庁防衛研究所戦史室著『戦史叢書十九号 本土防空作戦』によると、「釜石は八月九日、十二時五十分〜十五時にわたって、敵の艦砲射撃を受けた。第一航空軍司令官安田武雄中将は、かねて敵艦艇特別攻撃のため編成、訓練していた神鷲隊をもって右敵艦艇を攻撃するに決し、第二六飛行団長高明少将を通じて、飛行団長高明少将を通じて、当時若手飛行場に待機していた第二五五神鷲隊(第二六飛行団にて編成)に敵艦艇必殺攻撃を命じた。同隊の吉村公男中尉(五七期)及び渡邊秀男少尉(特別操縦見習士官)は、九九双軽をもつて十七時三十分岩手飛行場を出発した。吉村機には石井博伍長(通信)が同乗し、同機と地上の無線連絡を確保していた。



釜石市出身 中学校3年生のとき、東日本大震災で被災第15代 高校生平和大使

二百メートルの滑走路の端から端まで滑走してやっと離陸できるという状態だったし、渡邊機は離陸こそスムーズだったものの片脚が上がらないままであり、十分な機長機である吉村機だけという有り様だった。このように十分な飛行機もなく、機体の整備も不十分のまま戦闘を余儀なくされていたのが戦争末期の日本軍の姿であった。

「渡邊脚上がらず、されど断念せず。彼の意地は最後まで盛んなり。」(『出谷日記』)だったので。

夏油の四季②

回想の夏油 郡司直衛

夏油温泉の入口に、まるで門を構えたように枝を広げて立っている一本のブナの木がありました。ある高さからいつせいに枝を出しているのは、冬になるとどこまで雪が積もっている証拠で、雪から上に出ている部分が嵐や雪崩で折られたり、動物とくに人間に切られて薪にされたりしながら、それでも次々に新しい技を再生させて百年も二百年も生きてきた木です。こういう木に出会うと山の男たちはその木に向かって手を合わせるの

です。

の群れはこのブナの木の下まで来ると立ちどまり、決してそこから近寄っては来なかったとい

遙かなる夏油 郡司直衛

それは、吾が心のうちなる夏油のことです。

かつて夏油温泉は、まる一日を費やして、やっと辿りつくことのできる遠

たといいます。しかし、その狼



ヤマゴボウ (山牛蒡)

道ばたなどにふつうに見られます。ゴボウですが根は毒があり食べられません。今回お見せしたいのは小さい花に下がっている水滴なのです。見えますかあ？
一応、芸術家気取りで撮ったんですが…!?
(S)

た現在でも、アフリカのキリマンジャロよりもアラスカのマッキンレイよりも

「協力ありがとつ」ぎいました。

元気に世界大会に参加して来ます！



北上代表団 (左から高橋、都鳥、田島各氏) = 3日北上駅

出発しました。代表団のご家族や、阿部朗北上和賀原水爆禁止協議会事務局長、鈴木健二郎、高橋久美子両市議が見送りしました。代表団は8月6日までの日程で参加してきます。

阿部事務局長は、「コロナにより、3年ぶりの代表団となりました。市民のみなさんには多大なご協力をいただきました。参加ありがとうございました。報告等は後日行うこととなりますのでよろしくお願いたします」と話しています。

国民救援会が支部大会開催

2022年原水爆禁止世界大会(広島大会)に3日朝、3名の北上代表団は、岩手代表団と新幹線北上駅で合流し、元気に



再審法改正の意見書採択などの運動が大きく前進をした。さらに活動を強化しよう」などと呼びかけました。水戸正男県本部会長、安徳壽美子市議が来賓挨拶。「安倍元首相の国葬は保守の人からも批判の声が上がっている」「人権やえん罪の問題で救援会の活動はますます重要になっていく。さらに奮闘を」などと激励しました。大会では大江支部長以下の新役員を再任しました。

◆ ◆

大会では、ウクライナ侵略戦争中止、改憲阻止、共謀罪・戦争法廃止、仙台北陵クリニク筋弛緩剤えん罪事件(重点支援)などを今年度の具体的取り組みとすることや、「多くの無実の人々を救う運動への参加と支援」、会員を増やすため、広く参加を呼びかけることなどが確認されました。